

株主メモ

証券コード	3048
上場証券取引所	ジャスダック証券取引所
事業年度	毎年9月1日から翌年8月31日まで
定時株主総会	毎年11月
上記基準日	毎年8月31日
配当金受領株主確定日	毎年8月31日 (ただし、中間配当を行う場合は2月末日)
株式の売買単位	1株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
株式事務に関するお問合せ先	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-288-324 (フリーダイヤル) http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/index.html
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店及び全国各支店
公告の掲載方法	当社ホームページ (http://www.biccamera.co.jp/ir/library/index4.html) に掲載します。 ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。



<http://www.biccamera.co.jp/ir/index.html>
当社株主・投資家向けサイトでは決算短信、IRニュース、財務情報など、様々な情報を発信しております。



株主優待情報

当社店舗でご利用いただける株主お買物優待券を、毎年8月31日現在の当社株主名簿及び実質株主名簿に記載又は記録された株主様に対し、年1回贈呈いたします。



ご所有株式数	ご優待金額
1株以上 5株未満	3,000円(1,000円券× 3枚)
5株以上 10株未満	5,000円(1,000円券× 5枚)
10株以上 100株未満	10,000円(1,000円券× 10枚)
100株以上	50,000円(1,000円券× 50枚)

ご利用方法

- 優待券のご利用に関しては、当社におけるお買上げ代金のお支払いにご利用いただけます。
- 優待券のご利用に伴い、ビックポイントカードをお持ちの株主様には、現金でのお支払と同様に1ポイント1円に換算して次のお買い物にご利用いただけるビックポイントをお付けいたします。
- ネットショッピングサイト「ビックカメラ.com」でもご利用いただけます。ご注文後優待券をご郵送いただき、対象金額をキャッシュバックさせていただきます。詳しくは、当社ホームページ内IR情報(株主優待制度)をご確認ください。

※ビックカメラ.com「<http://www.biccamera.com/>」

ビックカメラ

東京都豊島区高田三丁目23番23号

R100
古紙配合率100%再生紙

PRINTED WITH
SOY INK
環境に配慮した「大豆油インキ」
を使用しています。

ビックカメラ

証券コード:3048

Data File

当中間期 平成18年9月1日～平成19年2月28日

前年同期比

連結売上高

264,678百万円

+20.1%

連結経常利益

8,627百万円

+25.9%

連結中間純利益

3,284百万円

+24.1%

ビックカメラ企業行動憲章(抜粋)

ビックカメラは、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守するとともに、社会的良識をもって、「お客様第一主義を実践し、最高のサービスをお客様に提供することで社会に貢献する」との経営理念のもと、「一人ひとりのお客様を大切に、最高の満足と喜びを感じていただけるよう、笑顔と真心を込めた言葉で接します」をスローガンに、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指して活動を続けてまいります。

CONTENTS

- 2 ----- 株主の皆様へ
- 3～6 ----- 財務諸表
- 7 ----- トピックス1：
店舗展開／ビックカメラSuicaカード
- 8 ----- トピックス2：
環境への取り組み
- 9 ----- トピックス3：
エディオンとの業務提携について
- 10 ----- 会社概要／株式の状況

株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、当中間期におけるわが国経済は、好調な企業収益を背景に設備投資が増加し、景気は概ね緩やかな回復基調で推移しましたが、企業部門の好調が家計部門へ波及したとは言いがたく、個人消費は横ばいで推移いたしました。

このような環境下、当社グループは、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」の一層の強化を目指して、価格・品揃え・接客・サービス・店作りにおいて、お客様に更にご満足いただけるよう改善を重ねてまいりました。

店舗展開におきましては、平成18年9月に「都市型」×「駅前」×「大型」の店舗であるビックカメラゾーンナ川崎店をJR川崎駅前の商業施設ゾーンナ川崎プラザ内に開店いたしました。また今後、JR京都駅直結のビックカメラ京都店(仮称)(平成19年8月開店予定)、JR岡山駅前にビックカメラ岡山店(仮称)(平成19年秋開店予定)、連結子会社である株式会社ソフマップにおきましては、旧ヤマギワ本店跡地にソフマップ秋葉原新本館(仮称)(平成19年9月開店予定)を計画し準備を進めております。

また、将来の物流の拡大に対応すべく新物流センターである東松山センター(埼玉県東松山市)を平成18年10月に稼働いたしました。

以上の結果、新規出店及び株式会社ソフマップの連結導入効果もあり、当中間期の売上高は2,646億78百万円(前年同期比20.1%増)となりました。営業損益、経常損益についても効率的な業務運営を行った結果、営業利益は79億49百万円(前年同期比23.4%増)、経常利益は86億27百万円(前年同期比25.9%増)となりました。投資有価証券評価損19億53百万円を計上し、中間純利益は32億84百万円(前年同期比24.1%増)となりました。

当社グループは①市場シェアの拡大 ②顧客ロイヤルティの向上 ③コスト削減・在庫管理の徹底 ④株式会社エディオンとの業務提携の推進、の各方策を継続・強化することを基本にして差別化を図り、「より豊かな生活を提案する、進化し続けるこだわりの専門店の集合体」を目指してお客様のご支持をいただいきたいと考えております。

また、継続的な収益を確保することにより株主の皆様への信頼に応えるべく努力を重ねてまいります。

今後とも皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒お願い申し上げます。



代表取締役社長 宮嶋 宏幸

連結財務諸表

中間連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 平成19年2月28日現在	前期 平成18年8月31日現在
資産の部		
流動資産	88,530	93,262
現金及び預金	24,610	35,300
受取手形及び売掛金	14,220	13,413
たな卸資産	35,049	30,354
その他	14,675	14,209
貸倒引当金	△24	△16
固定資産	108,346	97,376
有形固定資産	43,688	40,556
無形固定資産	4,896	4,876
投資その他の資産	59,761	51,943
資産合計	196,877	190,639

中間連結損益計算書(要旨)

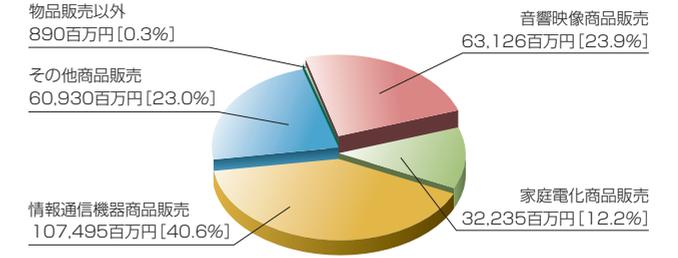
(単位:百万円)

科目	当中間期 平成19年2月28日現在	前期 平成18年8月31日現在
負債の部		
流動負債	113,200	105,932
固定負債	34,561	41,443
負債合計	147,762	147,376
純資産の部		
株主資本	42,756	40,221
資本金	12,548	12,548
資本剰余金	12,122	12,122
利益剰余金	18,085	15,551
評価・換算差額等	4,743	1,655
少数株主持分	1,614	1,385
純資産合計	49,114	43,262
負債純資産合計	196,877	190,639

中間連結損益計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期 自平成18年9月1日 至平成19年2月28日	前中間期 自平成17年9月1日 至平成18年2月28日
売上高	264,678	220,385
売上原価	201,457	166,173
売上総利益	63,221	54,212
販売費及び一般管理費	55,272	47,773
営業利益	7,949	6,439
営業外収益	1,996	1,624
営業外費用	1,318	1,210
経常利益	8,627	6,852
特別利益	49	116
特別損失	2,226	1,219
税金等調整前中間純利益	6,450	5,749
法人税、住民税及び事業税	3,692	3,740
法人税等調整額	△728	△357
少数株主損失又は少数株主利益(△)	△201	279
中間純利益	3,284	2,646



■品目別売上高

品目別売上高は、物品販売事業のうち音響映像商品については、大画面薄型テレビの増加等により売上高は631億26百万円(前年同期比4.8%増)となりました。

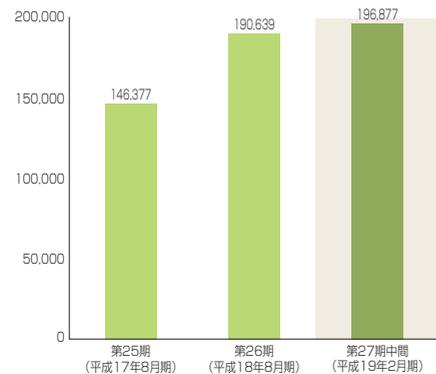
家庭電化商品については、高性能・高付加価値・省エネ商品である洗濯機、調理家電、理美容家電等が好調に推移し、売上高は322億35百万円(前年同期比6.3%増)となりました。

情報通信機器商品については、Windows新OSのVistaの発売日が公表された以降のパソコン本体の買い控えの発生はありましたが、株式会社ソフマップが当社の連結子会社となったことに伴い売上高は1,074億95百万円(前年同期比18.5%増)となりました。

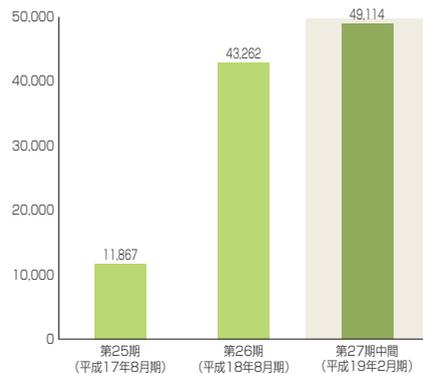
その他の商品については、新型ゲーム機の販売好調に加え、株式会社ソフマップのゲーム関連商品や中古商品の売上があり、売上高は609億30百万円(前年同期比70.9%増)と大幅な増加となりました。

■ 期末 ■ 中間

総資産(百万円)

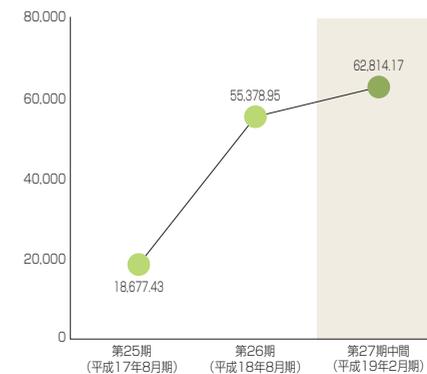


純資産(百万円)



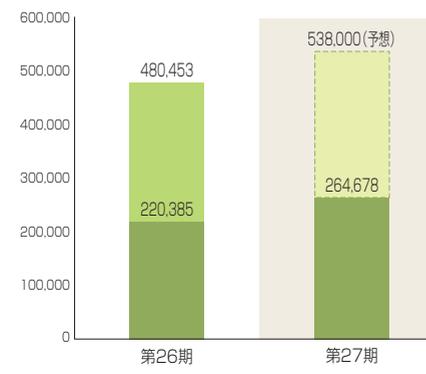
● 期末 ● 中間

一株当たり純資産(円)

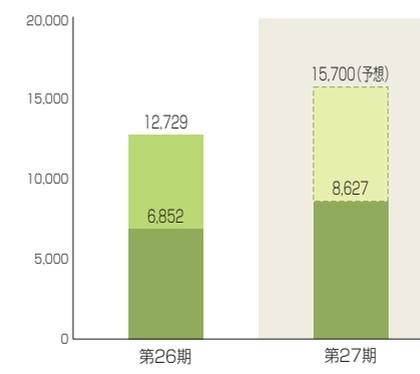


■ 期末 ■ 中間

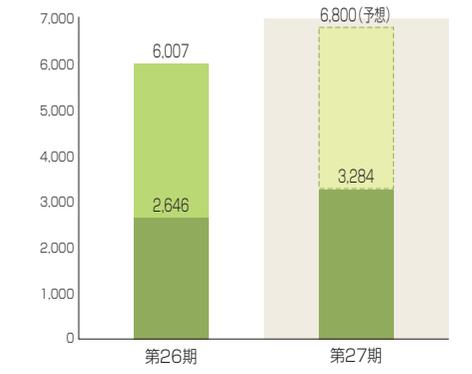
売上高(百万円)



経常利益(百万円)



当期純利益(百万円)



中間連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	自平成18年9月1日 至平成19年2月28日	自平成17年9月1日 至平成18年2月28日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△6,040	△3,701
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,559	△10,612
財務活動によるキャッシュ・フロー	4,853	10,351
現金及び現金同等物に係る換算差額	4	19
現金及び現金同等物の増加額	△10,743	△3,942
現金及び現金同等物の期首残高	33,108	27,545
合併による現金及び現金同等物の増加額	—	198
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	19	—
現金及び現金同等物の中間期末残高	22,385	23,800

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動の結果使用した資金は60億40百万円(前中間連結会計期間は37億1百万円の支出)となりました。これは主に税金等調整前中間純利益64億50百万円があったものの、法人税等の支払額38億77百万円があったこと、たな卸資産が46億94百万円増加したこと、仕入債務が49億63百万円減少したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動の結果使用した資金は95億59百万円(前中間連結会計期間は106億12百万円の支出)となりました。これは主に投資有価証券の取得による支出59億10百万円、有形固定資産の取得による支出26億96百万円、保証金の支払による支出14億63百万円によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動の結果得られた資金は48億53百万円(前中間連結会計期間は103億51百万円の収入)となりました。これは主に長期借入金の返済(収入と返済の差額)131億9百万円があったものの短期借入金193億5百万円増加したことによるものであります。

中間連結株主資本等変動計算書(自平成18年9月1日 至平成19年2月28日) (単位:百万円)

	株主資本			株主資本合計	評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金		その他有価証券評価差額金			
平成18年8月31日残高	12,548	12,122	15,551	40,221	1,655	1,385	43,262	
中間連結会計期間中の変動額								
剰余金の配当	—	—	△756	△756	—	—	△756	
中間純利益	—	—	3,284	3,284	—	—	3,284	
新規連結による剰余金の増加高	—	—	5	5	—	—	5	
株主資本以外の項目の 中間連結会計期間中の変動額(純額)	—	—	—	—	3,088	229	3,317	
中間連結会計期間中の変動額合計	—	—	2,534	2,534	3,088	229	5,851	
平成19年2月28日残高	12,548	12,122	18,085	42,756	4,743	1,614	49,114	

単体財務諸表

単体中間貸借対照表(要旨) (単位:百万円)

科目	当中間期	前期
	平成19年2月28日現在	平成18年8月31日現在
資産の部		
流動資産	71,437	77,290
固定資産	100,060	88,669
資産合計	171,497	165,959
負債の部		
流動負債	95,624	89,439
固定負債	28,038	33,961
負債合計	123,663	123,401
純資産の部		
株主資本	43,090	40,853
資本金	12,548	12,548
資本剰余金	12,122	12,122
利益剰余金	18,420	16,183
評価・換算差額等	4,743	1,704
純資産合計	47,834	42,557
負債純資産合計	171,497	165,959

■ 期末 ■ 中間



店舗展開

～「都市型」×「駅前」×「大型」の出店戦略～

年間2店舗程度大型店を出店していくことを目標に、今後も「都市型」×「駅前」×「大型」の出店戦略を展開します。

- 京都店（仮称）
平成19年8月開店予定



- 岡山店（仮称）
平成19年秋開店予定

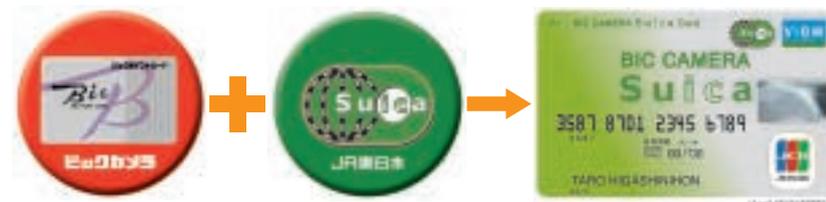
- 新・新横浜店
平成20年3月開店予定



- ソフマップ秋葉原
新本館（仮称）
平成19年9月開店予定



ビックカメラSuicaカード



- ビックポイントをSuicaとして利用可能
- 全店にカウンターを配置、即時発行可能
- SuicaとPASMOの相互利用開始

ビックカメラの『ポイントカード』とJR東日本の『Suica』を一体化した『ビックカメラSuicaカード』は、平成19年3月15日で誕生から1年を迎えました。この1年でお申し込み

をいただいたお客様は25万人を超え、「最強のクレジットカード」に選定されるなど高い評価をいただいています。

「ビックポイントがSuicaになる」、「クレジット払いでも現金払いと同率以上のポイントが貯まる」などの特長に加え、平成19年3月18日からJRのSuicaとPASMOの相互利用が開始、首都圏の私鉄地下鉄・バスがこの一枚で使えるようになり、ますます利便性が高まりました。

環境への取り組みは人類共通の課題であり、 企業の存在と活動に必須の条件であることを認識し、自主的、積極的に行動します

当社グループは省エネルギー、3Rの推進など地球環境問題に積極的に取り組んでいます。
お客様の利便性、買い替えの促進、リユースの促進による環境対策を同時に実現するサービスを今後も推進し、
環境問題に積極的に取り組んでまいります。



省エネ型製品普及推進優良店制度 3年連続大臣賞受賞

－平成18年度 環境大臣賞・資源エネルギー庁長官賞のダブル受賞－

当社は、財団法人省エネルギーセンター主催の平成18年度省エネ型製品普及推進優良店制度において、当社名古屋駅西店が環境大臣賞を受賞しました。これにより、当社店舗は前2年の経済産業大臣賞受賞に続き3年連続での大臣賞受賞となりました。また、今回は同時に高崎東口店が資源エネルギー庁長官賞を受賞した他、申請18店舗の全てが省エネ型製品普及推進優良店に認定されました。

同制度は、省エネルギー型製品の積極的な販売、並びに、省エネルギーに関する適切な情報提供を行っている家電販売店を評価・公表し、消費者に広く提供していくことを目的としております。

これからも当社では限りある資源を有効に利用し、地球温暖化の進行を防止するために、「省エネ家電製品」の普及に全社をあげて取り組んでまいります。

<平成15年度（制度創設時）>	第1位 有楽町店 第2位 池袋本店 第3位 立川店
<平成16年度>経済産業大臣賞	立川店
<平成17年度>経済産業大臣賞	札幌店
<平成18年度>環境大臣賞	名古屋駅西店 資源エネルギー庁長官賞 高崎駅東口店
省エネ型製品普及推進優良店	札幌店、大宮西口そごう店、柏店、渋谷東口店、渋谷ハチ公口店、新宿東口店、新宿西口店、立川店、有楽町店本館、池袋東口駅前店、池袋本店、池袋西口店、新横浜店、横浜西口店、なんば店、天神2号館

株式会社フューチャー・エコロジー

当社を中心として大手電機・電子メーカー16社の出資により設立され、東京都スーパーエコタウンで使用済みの電気、電子、情報機器のリユース及びリサイクルを行っています。

株式会社ソフマップ

昨年3月より当社の主要店舗にリユース事業でトップのソフマップの買取りセンターを設置し、パソコンを中心とするデジタル機器の査定、買取りのサービスを行っています。

株式会社エディオンとの 資本業務提携に関するお知らせ

平成19年2月8日に当社と株式会社エディオン（以下、「エディオン」という。）は、家庭電化製品、情報通信機器等の販売分野における事業基盤の強化拡大を相互に図ることを目的として、資本業務提携に関する基本契約を締結いたしました。

当社とエディオンは、お客様への満足度の高い商品、高品質なサービスの提供を通じた更なる成長を遂げるべく鋭意検討した結果、両社は、店舗展開エリアと店舗特性の相互補完関係があること、及び相互に強固な事業内容を有することから、業務提携により多大な相乗効果が見込めるものと判断し、本提携に至りました。

本提携は、今後更なるサービス体制の強化を図ることにより、お客様へのより満足度の高い商品、より高品質なサービスを提供することを可能にするものであります。郊外型店舗、小型FC店舗運営に強みを持つエディオンと、都市型店舗運営に強みを持つ当社のノウハウを融合させることにより、お客様に全国どこの店舗、どこの地域においても、質の高いサービスを提供することが可能になります。今後とも両社は、お客様本位の家電量販店チェ

ーンとして、お客様に喜んでいただけるにとどまらず、驚き、感動を与えられるサービスを提供していくことを目指してまいります。

また、平成19年3月30日に当社とエディオンは、資本業務提携に関する基本契約に基づき「業務提携委員会」を発足いたしました。業務提携委員会の決定検討内容は以下のとおりです。

●業務提携委員会の決定及び検討内容

- ① 役員の相互派遣
- ② 共同仕入取組商品の開発、展開
- ③ ポイント相互利用や、アフターサービス等の顧客サービス体制の強化
- ④ 物流ネットワークの共通利用による効率化
- ⑤ 魅力ある店作りへの共同取組、ノウハウ共有
- ⑥ 両社の強みを融合した業態開発
- ⑦ 広告宣伝企画の共同取組
- ⑧ 間接財の共同調達

会社概要

会社名	株式会社ビックカメラ
設立年月日	1980年 11月
資本金	12,548百万円
従業員数	3,238名
本社	東京都豊島区高田三丁目23番23号
主な事業内容	カメラ、パソコン、OA機器、ビジュアル製品、オーディオ、通信機器、家電製品、時計・宝飾、メガネ・コンタクト、うもうふとん、酒、ギフト用品、玩具、スポーツ用品、スポーツサイクル等の販売

取締役及び監査役

代表取締役会長	新 井 隆 二
代表取締役社長	宮 嶋 宏 幸
常務取締役	金 澤 正 晃
常務取締役	塚 本 智 明
取締役	野 口 進 夫
取締役	曾 我 邦 夫
取締役	加 藤 周 二
取締役	堀 越 雄 之
取締役	湯 本 善 之
取締役	児 島 仁 郎
取締役	有 田 龍 郎
取締役	生 井 俊 重
常勤監査役	伊 藤 秀 行
監査役	小 松 英 士 郎
監査役	岸 本 裕 紀 子

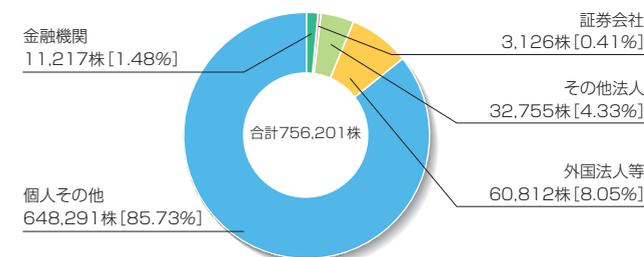
株式の状況

●発行可能株式総数	2,541,000株
●発行済株式の総数	756,201株
●株 主 数	33,615名

大株主

株主名	持株数(株)
新井隆二	547,369
株式会社エディオン	22,686
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク	21,261
バク オブ ニューヨーク シーシーエム クライアント アカウツ イー アイエス	15,790
シーシーエムエルイーアイピービー カスタマー コラテラル アカウツ	7,016
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	5,216
野村信託銀行株式会社（投信口）	1,734

所有者別株式分布状況



所有株数別分布状況

